

ニャンともおいしい フルーティな白ワイン



日独トラベル 三毛猫ラベル



「コロナで困っているんだ。2020年7月、ワインの輸入商社「ヘレンベルガー・ホーフ」(大阪府茨木市)の山野高弘社長(49)に国際電話がかかってきた。30年来のつきあいがある独西部モゼル地方の農園主からだ。収獲したワイン用のブドウを国内外のレストランやホテルに販売しているが、新型コロナウイルスの感染拡大で取引先は軒並み休業に。ワインに換算すると約2万5千本分のブドウの買い手が決まっていなかった。

「ドイツの有銘銘柄が黒猫を使っている」「それならうちの三毛猫で」「物語をつけて、シリーズ化しよう」。社員が意見を出し、デザイン会社にもお願い。買い取ったブドウは、現地のなじみの醸造所に「食

わが社はワインである。名前は「ミケ リースリング」。コロナ禍のドイツで行き場を失ったブドウから生まれ、日本の輸入商社がオリジナルの白ワインにしてくれた。ラベルには、ドイツで有名な黒猫にあやかった三毛猫が描かれている。

行き場のないワイン用ブドウ「全部買う」

十数人の社員と話し合いい、そのうちに折り返して「全部買い取ります」自社の売り上げも前年比で6割減。それでも、長年、家族のようにつきあってきた農園を助けようと腹をくくった。「経験したことの無い大きな取引。でも、ワインは保存がきくし、時間をかけて売ればよい」

「SNS発信・マンガ仕立て 看板商品の夢」とはいえ、これまで複数の銘柄のワインを1千〜2千本ずつ仕入れてきた同社にとって、1銘柄で2万5千本もの販売は未経験。商品のPRのため、社長自らビジネス講座でSNSを使った発信を学び、次に公式のアカウントを立ち上げた。

「ドイツの有銘銘柄が黒猫を使っている」「それならうちの三毛猫で」「物語をつけて、シリーズ化しよう」。社員が意見をだし、デザイン会社にもお願い。買い取ったブドウは、現地のなじみの醸造所に「食



2022年(令和4年)
2月19日
土曜日 夕刊

スポーツ	7		
いま聞く	3	惜別	5
株	4	社会	9
Monthly World	5		
社会・総合	8	社会	9
TV・ラジオ	2.10		